

①若き数学者への手紙

②イアン・スチュアート著；富永星訳 ③日経BP社 ④11号館一般

⑤本書は、サイエンス読み物の書き手として著名なI.スチュアートが、数学を志すメグ（姪？）宛てに数学者としての告白や助言を書簡の形で綴るという想定で書かれています。彼女が教員になるまでの間に送られた21通の書簡の中で、数学とは何なのか、何の役に立つのか、どのように学べばよいのか、数学的な精神はどのように働くのかといった問題が、平易なことばで語られています。 ⑥長淵裕先生

①石油の生産量はピークにきたのか？：ピークオイルの本質と21世紀のエネルギー

②根岸敏雄 著 ③石油文化社 ④11号館一般

⑤総石油量の半量消費の年は2011との問題の入門書である。富士山を酒盃とすると、3分の1ぐらいが残量であるとの計算はショックで、評者も思わず人類の行く末を案じました。本書を横に置き、電卓片手に、鉛筆を握りしめて一度は自ら確かめてみることをお奨めします。 ⑥山崎重雄先生

①やさしいバイオテクノロジー：血液型や遺伝子組換え食品の真実を知る（サイエンス・アイ新書）

②芦田嘉之 著 ③ソフトバンククリエイティブ ④11号館一般

⑤バイオテクノロジーのことだけでなく、その基礎となる遺伝子についてもわかりやすく説明されてあるので、とても読みやすいと思います。また、「コラム」では最近のトピックスにも触れてあり、この本を読むと遺伝子組換え（食品）に対する考え方が変わるかもしれません。 ⑥宮永政光先生

①バイオ研究のフロンティア 1 環境とバイオ

②田中信夫 編 ③工学図書 ④11号館一般

⑤生命理工学の入門書として書かれているため、生物化学の基本はきちんと押さえてあります。タイトルに「環境」が入っているように、人間・細胞・化合物の環境について興味深く書かれています。

⑥宮永政光先生

①「空気」の研究（文春文庫）

②山本七平 著 ③文芸春秋 ④10号館文庫

⑤日本人と日本社会に見出される、日本人的なるものを鋭く追求した研究書。今後、国際化して行かなければならない宿命にある我が国の将来を担う若者に、是非読んでいただきたい。 ⑥由谷親夫先生

①悩む力（集英社新書）

②姜尚中 著 ③集英社 ④21号館一般

⑤現在、私たちを取り巻く環境はさわめて自由な社会です。本文中にあります。「何をするのも、何を信じるも自由」というのはつらいものです。確信を得るまで悩むしかない。ある種の答えがこの本には示唆されています。見つけてみよう。 ⑥由谷親夫先生

①フェルマーの最終定理（新潮文庫）

②サイモン・シン 著；青木薫訳 ③新潮社 ④11号館一般

⑤20世紀末にやっと真偽が確定し、定理となった。17世紀の天才アマチュアが残した史上まれにみる難攻不落の予想。本書を読めば、数学とはほど遠い分野の素人でも、この最終定理とは何か、少しは分かり、その命題の大きさが想像できる。好著和訳が、文庫版で寝転んでも読めるとは。 ⑥高崎浩幸先生

①王様気どりのハエ（科学選書）

②ロバート・S.テソヴィツ 著；記野秀人、記野順 訳 ③紀伊國屋書店 ④11号館一般

⑤30年以上も、WHOの専門家として世界各地の公衆衛生に携わってきたテソヴィツ博士の科学エッセイ。「アスワンダムが出来て何が起こったか」や「高級避暑地に突如現れた寄生虫」など、奇想天外な展開が読者を魅了するだけでなく、現代社会に対する貴重な示唆にも富んでいる。 ⑥小林秀司先生